

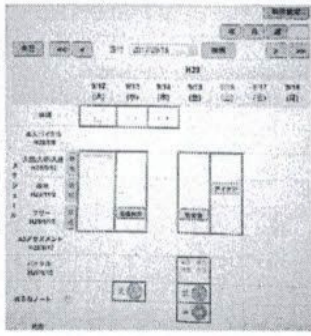
今回から医療について、シリーズでお伝えしていきます。

### 高橋病院がいち早く

函館は、ICTやロボットを活用した医療や見守りの先進地です。高橋病院（元町）では早くからカルテを電子化し、他の病院や介護事業所と診療情報を共有する仕組みをつくってきました。函館の一つの病院から始まったネットワークは評価され、現在36都道府県に広がっています。

### 「ばるな」で情報共有

加えて、高橋病院では数年前、患者や家族も見て、書き込むことができる生活支援型



患者も見て記入できる「ばるな」

## ■シリーズ医療① 病院でのICT活用

の情報共有システム「ばるな」が開発されました。専用の血压計や体重計が貸し出され、

毎日自宅で測定すると自動的に「ばるな」に記入されます。また、専用の電子ペンと紙を使って体調に印をつけると、「ばるな」に紙の画像が記録されます。また、患者や家族は知っておいてほしい自分の人生歴や、受けたいケアの内容などを「ばるな」に書くこ

# 函館医療、見守りの先進地

ともできます。これらの情報は医療関係者、介護事業所に共有され、患者や家族もいつでも見ることが出来ます。ドキュメントのボタンを押せば、公表された医師の記録も見ることが出来ます。

毎日、医療・介護関係者と双方方向の情報交換ができて便利ですが、現在「ばるな」は専用器具の貸し出しを含めて高橋病院が無料で行っており、全国的には広がっていません。スマートフォンを使え



大橋美幸准教授（おはし・みゆき）  
滋賀県生まれ。横浜国立大学大学院博士後期課程工学研究科修了・工学博士。2005年から函館大学で社会学、社会福祉論などを担当。地域連携センター長。

ばアプリを入れるだけで利用でき、安価になっています。で、ICTを活用した見守りや健康づくりに適切な費用を支払う仕組みが求められます。

### ロボットも活用

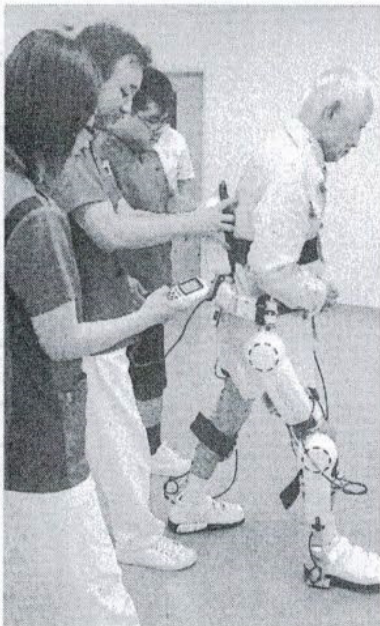
また、高橋病院ではロボッ

コミュニケーションロボットは最近、経済産業省の「ロボット技術の介護利用における重点分野」に入りました。今後、全国的に介護施設などへの導入時の費用補助などが検討されていきます。

さらに、病院のリハビリテーション室ではロボットス

トも活用されています。病棟ではコミュニケーションロボットが手作りの酒屋の舞台上で「北酒場」を歌い、楽しみの場をつくりだしています。

HALが歩行訓練に利用されています。HALは高機能の装置のように見えます。両足につけると、微弱な電気信号を感じて力をアシストして



HALを利用した歩行訓練デモンストレーション

くれるので、脳卒中などでマヒが残った人でも歩くことができます。ただし、レンタル料が非常に高価で、高橋病院にも1台しかありません。また、リハビリ職員が2人がかりで利用するなど、人手と手間がかかります。

病院に支払われる料金については2016年に神経難病で診療報酬が支払われるようになりましたが、脳卒中などは対象になっていません。適用拡大に向けて調査が進められており、今後注目です。

このように函館は、法的整備、費用補助などが行われる以前から、全国に先駆けてICTやロボットを利用した医療や見守りを進めてきました。ただし、効果に見合った費用が支払われる仕組みがないために生かされていません。「ICTやロボットのまち」函館として、先進的な取り組みを評価し、医療や健康づくり、見守りなどを発信していければ素晴らしいと思いませんか。

来月以降、医療について経営学、経済学など、多様な観点から話題を提供していきます。ご期待ください。

(次回は2月2日掲載)